

海外の話題

バスに乗って

農林中央金庫 北京駐在員事務所長 森下 純也

北京赴任直後、頻繁にお世話になった移動手段はタクシーです。しかし、中国語で目的地を伝えるのに苦勞する場合がある事に加え、絶対数が不足しているためか、夜9時台や雨天時等、ここぞという時に空車が走っておらず、これからの季節であれば寒空の下、長時間待たされる可能性が高まります。また、供給不足という売り手市場を最大限生かし、人通りの多い場所に車を止め、価格交渉後に乗車させる運転手や、そもそもメーターを倒さない運転手も中にはいます。私は経験がありませんが、以前は、100人民元札を渡すと、受け取った真札をすり替えて偽札を返却する運転手がいたそうです。

街中を走っているタクシーを見ると、運転手の隣に座って楽しそうにしゃべりながら目的地に向かっていく方も大勢おられるので（中国では一人で乗車する場合も、なぜか運転手の隣に座る方が多いです）、殆どのタクシーは問題ないとは思いますが、私自身は苦手意識があります。

赴任後暫くすると、地下鉄にも乗るようになりました。路線拡張が進んでいるうえ、マイカー利用を抑制し、道路渋滞 / 大気汚染を軽減するという政策誘導や庶民の足の確保という観点から料金が低水準に設定されており、地下鉄であれば、どこまで乗っても、乗り換えても通常40円程度という安さです。市内中心部を走る地下鉄の名称は「1号線」等、番号のみの分かりやすいものとなっている事も使い勝手を良くしています。

自動車保有の増加に伴い深刻化している道路渋滞の影響を受けないのも良い点です。しかし、平日 / 週末を問わず常に混んでいる印象がある事、終電が一般的に早い事、拡張が進んでいるとはいえ、地下鉄駅のアクセスを持たない大きなショッピングモールや繁華街が存在する事、等が地下鉄利用のネックとなります。

便利だよと教えて下さる方がいて、恐る恐る挑戦したのがバスです。タクシーが捉まらないため、地下鉄駅まで30分近く歩かなければならなかった時、バスが何台も通り過ぎたのに乗車しなかったのは、①どのバスに乗ったら良いかわからない（→地図アプリに目的地 / 到着地を入力すると、乗車すべきバスの番号、乗車 / 降車のバス停を正確に教えてくれます）、②乗り方がわからない（→普通のバスは前乗り、後ろ降り。乗り口を知らせるシールも貼られています）、③日本と違って運転手に降車を伝えるブザーが無いため、降りられるか不安（→街中のバス停は全て停車する義務があるそうです）等の不安があったためです。

試しに乗ってみると地下鉄駅の無い目的地近くにもしっかり行ける事もありとても便利です。料金も全区间20円程度（一定距離以上の場合に料金が加算される長距離路線もあり）と非常に安く、地下鉄と共通のプリペイドカードを使うとさらに割引が適用されます。

道路渋滞の影響を受けたり、終バスが早い事に加え、バス停には路線図と始発 / 終発の時刻表示はあるものの、肝心の時刻表が無く、いつになったらやってくるのか分からない事、映りが悪いテレビやWiFiは付いているのに、エアコン装備率は半分程度に留まる事、等の問題はありますが、いつになったら来るのか分からないバスを皆で待つ行為に全くの他人とはいえ何だか一体感が感じられる事、車に乗って通る主要道路とは異なる全く知らない路地を走り、道路脇でトランプや麻雀を楽しむ様子等、普段着の北京を車窓から眺められる事等が気に入り、今ではすっかりバス・ファンになっています。

ブザーが無いという不安については、確かに全てのバス停で停車するため、これまで降りられなかった経験はありませんが、何となく不安なので、早めに降り口近くに立って、運転手に降車をアピールするよう

にしています。

北京市民の手軽な移動手段として定着しているバス / 地下鉄ではありますが、料金設定がコストを度外視したものとなっているため、財政負担は深刻化しています。運賃収入と運営コストの差額を補てんする政府補助金が年間 3,000 億円超の水準となっているため、間もなく値上げが実施される予定となっており、どの程度の値上げとなるのか注目されています。

つい最近の週末、バスに 1 時間以上揺られて帰宅しました。夏の間はエアコン無しのバスだどがっかりしつつも次のバスが何時来るか分からないので我慢して乗っていたものですが、開いた窓から入る空気がひどく冷たく、短いと聞いていた北京の秋が本当にもう終わろうとしていると実感しました。